

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム

中長期計画（2019～2024年度）

<構成>

1. はじめに
2. 千代田区の高等教育の現状と分析（方向性）等
3. 千代田区キャンパスコンソの高等教育のビジョン・目標等
4. 中長期計画実施のロードマップ
5. 千代田区キャンパスコンソの運営体制等
6. 中長期計画の評価
7. 学術分野マップ

1. はじめに

大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学（以下、「各大学」という。）は、2018年4月1日に「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」（以下、「千代田区キャンパスコンソ」）を設立した。

この「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム中長期計画（2019～2024年度）」は、2018年9月28日に策定した「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム基本方針」（以下、「基本方針」という。）をもとに、2024年度までを期間とした中長期計画を示すものである。基本方針で示した千代田区等における高等教育を取り巻く環境や各大学の現状、ビジョン・目標や取組む事業等に加え、2024年度までの事業計画の内容とそれらのロードマップ、事業推進体制や実施事業に対する評価の方法等を示し、千代田区キャンパスコンソの更なる発展を図るものである。

2. 千代田区の高等教育の現状の課題と分析（方向性）等

（1）千代田区の高等教育の現状等

a. 大学・短期大学・高等学校の数とその学生・生徒の数

2018（平成30）年5月1日現在、千代田区には大学が14校、短期大学が5校（いずれも私立のみ）あり、学生数は、大学135,734人、短期大学1,634人である。

一方、東京23区全体では大学が103校（国立7、公立1、私立95）、短期大学が28校（私立のみ）あり、学生数は、大学が556,591人（国立47,697、公立243,844、私立508,651）、短期大学が9,844人である。

千代田区と東京23区との関係では、学校数では大学13.6%、短期大学17.9%が、学生数では大学24.4%、短期大学16.6%が、千代田区と東京都との関係では、学校数では大学9.2%、短期大学13.5%が、学生数では大学18.3%、短期大学12.9%が、それぞれ千代田区が占めている。

<表1>大学の学校数・学生数（2018（平成30）年5月1日現在）

(大学) (単位:校又は人)

	総数				国立		公立		私立	
	学校数	千代田区が占める割合	学生数	千代田区が占める割合	学校数	学生数	学校数	学生数	学校数	学生数
千代田区	14	—	135,734	—	0	0	0	0	14	135,734
東京23区	103	13.6%	556,591	24.4%	7	47,697	1	243	95	508,651
東京都	153	9.2%	740,358	18.3%	14	75,320	2	9,319	137	655,719

注1：学生数は大学本部の所在する地域を基準とした（都内に大学本部が所在しない学校は含まない）。

注2：学生数には、学部学生のほか大学院学生を含み、専攻科・別科の学生、通信教育の学生及び聴講生等は含まない。

注3：文部科学省「平成30年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」をもとに作成した。

<表2>短期大学の学校数・学生数（2018（平成30）年5月1日現在）

(短期大学) (単位:校又は人)

	総数				国立		公立		私立	
	学校数	千代田区が占める割合	学生数	千代田区が占める割合	学校数	学生数	学校数	学生数	学校数	学生数
千代田区	5	—	1,634	—	0	0	0	0	5	1,634
東京23区	28	17.9%	9,844	16.6%	0	0	0	0	28	9,844
東京都	37	13.5%	12,657	12.9%	0	0	0	0	37	12,657

注1：学校数は短期大学本部の所在する地域を基準に計上した。

注2：学生数は、本科学生のみであり、専攻科・別科の学生、通信教育の学生及び聴講生等は含まない。

注3：文部科学省「平成30年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」をもとに作成した。

高等学校（全日制・定時制・併置）及び中等教育学校（後期課程）は、千代田区内に21校（公立4、私立17）ある。東京23区全体323校のうちの6.5%、東京都全体449校のうち4.7%を占めている。21校の生徒数は合計11,896人である。東京23区全体223,436人のうち5.1%、東京都全体328,513人のうち3.6%を占めている。

<表3>高等学校の学校数・生徒数（2018（平成30）年5月1日現在）

(単位:校又は人)

	学校数					生徒数				
	国立	公立	私立	合計	千代田区が占める割合	全日制・定時制・併置校	通信制	中等教育学校（後期課程）	合計	千代田区が占める割合
千代田区	0	4	17	21	—	10,554	892	450	11,896	—
東京23区	8	120	195	323	6.5%	223,845	7,481	2,110	233,436	5.1%
東京都	8	195	246	449	4.7%	314,385	10,647	3,481	328,513	3.6%

注1：全日制・定時制・併置、通信制の各高等学校及び中等教育学校（後期課程）の合計。中高一貫教育を行う学校を含む。

注2：生徒数は本科及び専科。通信制は特科生を含まない。

注3：文部科学省「平成30年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」をもとに作成した。

区内の大学・短期大学と高等学校及び中等教育学校（後期課程）との関係では、学生数・生徒数の比較からも、千代田区内の大学及び短期大学には、区外の高等学校や中等教育学校（後期課程）の出身者を多数受け入れていることが明らかである。

b. 千代田区の人口

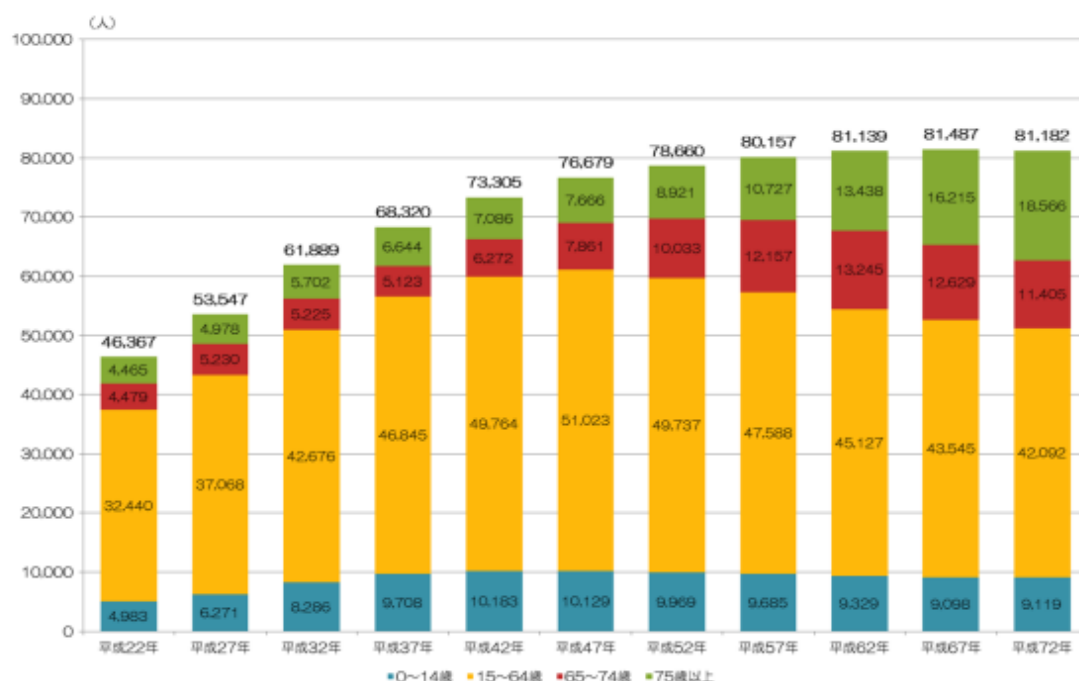
国勢調査では、平成27（2015）年10月1日現在の人口は、昼間は853,068人、夜間は58,406人であり、昼間人口が夜間人口を大幅に上回っている。また、平成12（2000）年10月1日現在（昼間855,172人、夜間36,035人）と比べると、夜間人口は22,000人以上増えている。

<表4>千代田区の人口推移（国勢調査）

	(単位:人)			
	平成12年10月1日	平成17年10月1日	平成22年10月1日	平成27年10月1日
昼間人口(千代田区)	855,172	853,382	819,247	853,068
昼間人口(東京都)	14,666,899	14,977,580	15,576,130	15,920,405
夜間人口(千代田区)	36,035	41,778	47,115	58,406
夜間人口(東京都)	12,064,101	12,576,601	13,159,388	13,515,271

また、千代田区が、「千代田区まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27～31年度）」において示した平成22（2010）年10月1日現在の国勢調査による千代田区の日本人人口をもとにした将来人口推計では、合計特殊出生率換算で約1.38とした場合、平成50年代頃まで増加基調で推移し、その後横ばいから減少に転じ、平成72（2060）年には81,182人となるとされている。

<グラフ1>千代田区の人口推計（国勢調査）



注) グラフ最上部の太字の数値は総人口

※出典：千代田区まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27～31年度）資料編 千代田区人口ビジョン

c. 千代田区 of 取組み・計画

千代田区では、平成27（2015）年から同36（2024）年を計画期間とする基本方針「ちよだみらいプロジェクトー千代田区第3次基本計画2015ー」を策定し、以下の基本構想に基づき、また、重点プロジェクトを設け様々な取組みを行っている。

<基本構想>

- 1 安全で安心できる、いつまでも住み働き続けられるまちへ
- 2 福祉の心が通いあう、安心と支え合いのまちへ
- 3 心豊かに学び、文化を作り出すまちへ
- 4 人と人とのふれあいを大切にする、個性あふれるまちへ

<重点プロジェクト>

- 1 子育てしやすいまち
- 2 高齢者になっても住み続けられるまち

- 3 都心で水辺に親しめるまち
- 4 人とのつながりが持てるまち
- 5 自転車利用がしやすい環境にやさしいまち
- 6 災害にそなえ「協助」が確立されたまち
- 7 安全で、ホスピタリティあふれる魅力的なまち

この中で、施策の目標や取組み内容については、町会、大学、企業等の交流が活発化し、地域の絆がより強まっていることを10年後の姿と設定する等、地域連携の必要性を挙げており、大学、専修学校等、NPO・ボランティア等を通じて、区民が地域の活動に参加できる環境を整備することを取組む内容の1つとして位置づけている。

上記のとおり、千代田区には多くの教育機関が立地している。区は各教育機関が有する特色や知識を生かし、各教育機関と地域がともに発展できるよう、学校同士や地域、企業等との連携協力を推進している。平成15（2003）年には「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」を区内11大学と、また、平成19（2007）年には「千代田区専修学校各種学校協会と千代田区との連携協力に関する基本協定」を千代田区専修学校各種学校協会加盟の専修・各種学校等を対象に締結した。

平成31（2019）年度においては、以下の連携事業を展開している。

内容	備考
「千代田区」提案制度 (平成16（2004）年度から)	千代田区に関する調査・研究を行う大学と連携し、経費の一部を区が負担する制度 平成30（2018）年度は9大学11件採択。
「大規模災害時における協力体制に関する基本協定」の締結 (平成15（2003）年度から)	学生ボランティアの整備・派遣や大学施設を一時避難施設として開放すること等についての協定 平成30（2018）年4月現在で10大学と締結
千代田区ホームページ内特集ページ 「千代田区内大学と千代田区の連携協力」開設 (平成15（2003）年度から)	大学と区の情報発信、交流の場として開設
インターンシップ	平成30（2018）年度：10大学11人
大学公開講座	大学公開講座を、区と大学の共催・後援で開催
大学図書館との相互協力	9大学11図書館を区民が利用可能。
学生ボランティア	地域イベント、地域美化活動等
大規模災害時における協力体制に関する基本協定	地震等大規模災害発生時における、区民、在勤者及び区内訪問者等の安全確保を図るための協力体制と平常時からの協力体制の整備

d. 区内の産業界

千代田区はその立地から多くの企業・団体の事業所が集まっており、区内の事業所数は、東京23区では港区、中央区に次いで3番目に多い34,250にのぼる（平成26年経済センサス基礎調査より）。

千代田区の商工振興という観点からは、千代田区は、中小企業や商工業の活性化に向けた取組みについて、その指針である「千代田区商工振興基本計画」を平成29（2017）年3月に改定した。同計画では、「コミュニティを大切にし、魅力あるまちを創造します」という基本理念のもと、平成33（2021）年度までの5年間で区が取り組む基本施策や取組みの方向性、事業等を定めている。この中で、千代田区が目指す商工業振興の方向性として、区内に集積する大学等で学ぶ多くの学生の視点を新たに加えることで、学生の力を地域の商工業の振興につなげていくことが述べられており、また、商工関係団体の組織活性化のために、大学生ボランティア団体

とのマッチング支援が取組み事業の1つとして挙げられている。

e. 各大学における社会・地域連携に対するステートメント

各大学の長期ビジョン・計画、グランドデザイン等に定められている社会や地域との連携の内容、それらと千代田区キャンパスコンソの関係は以下のとおりである。

<大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部>

本学院のミッションと経営指針において、「教育機関としての社会的責任を認識し地域社会との連携に努める」ことを掲げている。地域連携を積極的に推進することを本学の社会的責任の基本方針とし、地域社会へ本学の教育と研究成果を還元し、地域の多様な学習ニーズに応えるとともに、地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることに努めている。また、本学の教育目標の一つである「地域との連携において指導的役割を果たせる人材を育成する」の方針を踏まえ、学生が様々な地域と関わる中で主体性や自立心を身に付け、その成果を学生の教育に反映できることを目指している。

さらに、千代田区キャンパスコンソ連携事業を通じて、地域産業会等の活性化及び地域社会の発展・人材育成に努める。

<共立女子大学・共立女子短期大学>

本学園の第二期中期計画では、地域連携のめざす方向性として『地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、「知」の成果を広く社会に還元し、教育的・学術的・文化的貢献を果たすこと』を目標に掲げている。かねてから、本学の位置する千代田区、神田神保町境界との様々な連携を重ねてきた。これに加え、千代田区キャンパスコンソを通じて、地域、そして地域内の高等教育の発展に寄与するとともに、広く社会連携・社会貢献の営みとして努めることをここに示す。

<東京家政学院大学>

本学は、建学の精神である「KVA精神」（知識の啓発・徳性の涵養・技術の錬磨）に基づき、生活者の視点から、家政学を中心的な学問分野として教育・研究を行い、個人・家庭・地域の豊かな暮らしはもとより、地球規模の問題解決に貢献できる人材を育成し、社会に送り出すことを目指している。本学が中心的に取り扱う家政学の分野は、地域社会（Community）との関わりの強い学問分野であり、それゆえ、本学における教育・研究活動にあたっては、地域社会との連携が不可欠である。また、その成果は、人々の暮らしや文化の発展・向上に寄与するものである。本学では、こうした学問分野の特長を踏まえ、千代田区キャンパスコンソの連携事業を通して、地域社会との連携、社会貢献に努める。

<二松学舎大学>

本学の第二期中長期計画「N' 2030PLAN」では、地域連携イベント開催数等のKPI (Key Performance Indicator) を設定し、柏事務部地域連携室を窓口として、地域に根差した大学として、キャンパスのある千代田区や柏市のほか、創立者三島中洲の故郷である岡山県倉敷市とも連携し、地域振興を意識した教育を行っていく。

今回、千代田区キャンパスコンソの連携事業を通じ、千代田区の地域振興を図りつつ、本学のブランドイメージや在学生・卒業生の愛校心、グローバル化・ICT化等社会のニーズに対応した人材教育が社会に認知されるとともに、卒業生が様々な職業について活躍するよう努める。

<法政大学>

高等教育機関としての公共的使命の重さを認識し、教育研究の質の向上に取り組む姿勢を社会に広く表明するため、法政大学憲章、ミッション・ビジョン、教育目標・各種方針を策定・公表している。そのうち、社会連携・社会貢献に関する方針において、「社会全体の市民教育に貢献し、民主的で力強い持続可能社会を創造する」という方針の下、教育と研究の成果を社会に還元することによって、社会連携・社会貢献・国際協力を進めていくことを明らかにしている。千代田区キャンパスコンソについては、各大学の近接する立地等を生かし、学生の学びや社会の人材養成に関する要請など多様なニーズに適切に対応していくことを目的として、また、千代田区の魅力創出と発展、地域産業の振興等を目的として、大学間、千代田区及び区内産業界等との連携を推進することを定めている。

(2) 課題と分析 (方向性)

上記(1)のとおり、千代田区は、昼間人口が夜間人口を大幅に上回るとともに、東京23区内大学生の1/4近くが集積する職場と学びの場としての特性を持っている。これらの特性を踏まえ、千代田区キャンパスコンソでは、「安全で安心できる、いつまでも住み働き続けられるまち」、「心豊かに学び、文化を作り出すまち」、「人と人とのふれあいを大切にする、個性あふれるまち」づくりに貢献していきたいと考えている。基本計画において、区と大学との連携を取組項目の1つとして位置付けており、様々な取組みを行っている。地域の産業界(商工関係団体等)についても、区とともに大学との連携を推進することを振興計画の1つに挙げている。また、各大学でも、それぞれの基本計画や中長期計画等において、社会や地域との連携を課題、重要施策の1つとして位置づけ、具体的な連携事業に取り組んでいる。

一方、高等教育を取り巻く環境は、いわゆる「第4次産業革命」による産業構造・就業構造の革新的変化、主たる進学者である18歳人口の大幅減少等、社会経済は従来の経験からは予測不能な変化を遂げることが予想されている。より一層の学修の質の向上とともに、変化に対応し新たな価値を創造できる人材を育成することが求められるようになっていく。

千代田区キャンパスコンソは、区内の近接地にキャンパスを有する大学から構成される。徒歩圏の立地という利点を最大限に生かしながら、それぞれが有する人的、物的資源を共有・有効利用し、単位互換を含む教育・研究活動や、これまで各大学が個々に千代田区や区内産業界等と行ってきた公開講座等の社会・地域連携事業を、千代田区キャンパスコンソが連携(共同)することにより、一層広範囲かつ効率的なものとする。

千代田区キャンパスコンソに在籍する学生に対しては、徒歩圏の各大学がその特色ある高等教育を提供することで、変化に対応し新たな価値を創造する能力を身に付け得る多様な「学び」を提供することができ、働きやすさや教養教育、地域の文化レベルの向上に資すると考える。また、地域住民、区内在勤者、学生等がふれあい、協力することで、千代田区の特徴を踏まえながら、その抱える課題を効果的に解決することが可能になる。学生にとっても地域や現実の問題、多様な課題の解決にチャレンジすることが可能となり、実践的な学びの広がりにつながるものである。

以上のことから、千代田区キャンパスコンソの方向性として、近接地の立地を生かした大学間連携と地域発展の推進を図ることを位置づける。

3. 千代田区キャンパスコンソの高等教育のビジョン・目標等

(1) ビジョン・目標

千代田区キャンパスコンソは、経済社会の健全な発展の推進力となることを目指し、各大学、千代田区(関係団体等を含む)及び地域産業界等が、近接する立地等を生かした連携を図ることにより、学生の学びや社会の人材養成に対する要請等、多様なニーズに適切に対応することを目的とする。

千代田区キャンパスコンソは、以下の連携事業を推進することを目標に掲げる。

- I 各大学間の連携に関すること（教育の質の保証・向上、学生の交流及び多様な学びの提供等）。
- II 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携に関すること（研究成果還元及び千代田区内の地域コミュニティの活性化等）。
- III 各大学と地域産業界等との連携に関すること。
- IV 各大学と地方の大学との連携に関すること。
- V その他千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項。

千代田区キャンパスコンソは、各大学の建学の精神に立脚した人材育成方針とビジョンに基づく高等教育を基本とする。加えて、各大学は共同して目標に掲げた連携事業、即ち単位互換やマルチ・ステージ時代に対応した学び直し、資源の相互活用等に取り組み、学生の多様性を育むよう努める。そして、多様な協力関係を管理する能力、問題の要素を結び付け情報を収集・整理し新たな価値を生み出す能力、専門家としての深い知識とジェネラリストとしての知識の幅広さを併せ持つ能力を身につけさせ、情報高度化社会の進展や経済・産業構造の変革にあっても活躍できる人材を養成することを目指す。

（２）課題と数値目標

上記２（２）の課題と分析（方向性）の内容を踏まえ、ビジョン・目標ごとの課題と数値目標を別表１のとおり定める。課題と数値目標は、必要に応じて運営委員会において見直すものとする。

4. 中長期計画実施のロードマップ

（１）千代田区キャンパスコンソ設立初年度（２０１８年度）の取組み

千代田区キャンパスコンソでは、大学、千代田区、地域産業界（千代田区商工業連合会）の委員から構成される運営委員会を設置し、重要事項を審議・決定している。２０１８年度はこの運営委員会を合計１１回を開催した。

２０１８年９月には、ビジョン・目標や取組む事業等、千代田区キャンパスコンソがめざす基本的な方向性を示す千代田区キャンパスコンソの基本方針を運営委員会において策定し、その後、年度の後半からは、本中長期計画策定の検討に着手した。

２０１８年度１年間で、千代田区キャンパスコンソが主催・共催・協力・協賛等を行う連携事業を２９件実施した。また、千代田区キャンパスコンソ基本方針において定めた５つの目標と１１の課題に関する２０１８年度の取組み結果を検証するとともに、２０１９年度の年次計画を策定し、これらの内容を公表した。

（２）中長期計画実施のロードマップ

千代田区キャンパスコンソの中長期計画実施のロードマップを別表２のとおり定める。ロードマップの期間は２０１９年度から２０２４年度までの６か年とする。

また、運営委員会のもとに「中長期計画策定・検証委員会」を設置した。同委員会では、毎年度、中長期計画の実施内容や進捗の確認を行う。

今後、２０２１年度末に必要なに応じて見直しを行うとともに、ロードマップ期間終了後の新たな計画については、２０２４年度末までに検討するものとする。

5. 千代田区キャンパスコンソの運営体制等

千代田区キャンパスコンソの運営体制等は以下のとおりとする。

(1) 運営体制

a. 運営委員会

- (a) 千代田区キャンパスコンソの運営に関する重要事項を審議・決定するために、運営委員会を置く。
- (b) 運営委員会は、年2回以上開催し、以下の内容を審議・決定する。
 - イ. 千代田区キャンパスコンソが実施する連携事業に関すること。
 - ロ. 千代田区キャンパスコンソと千代田区（関係団体等を含む）、地域産業界等及び地方の大学との連携に関すること。
 - ハ. 中長期計画の策定及び実施に関すること。
 - ニ. その他千代田区キャンパスコンソの運営に関すること。

b. 分科会

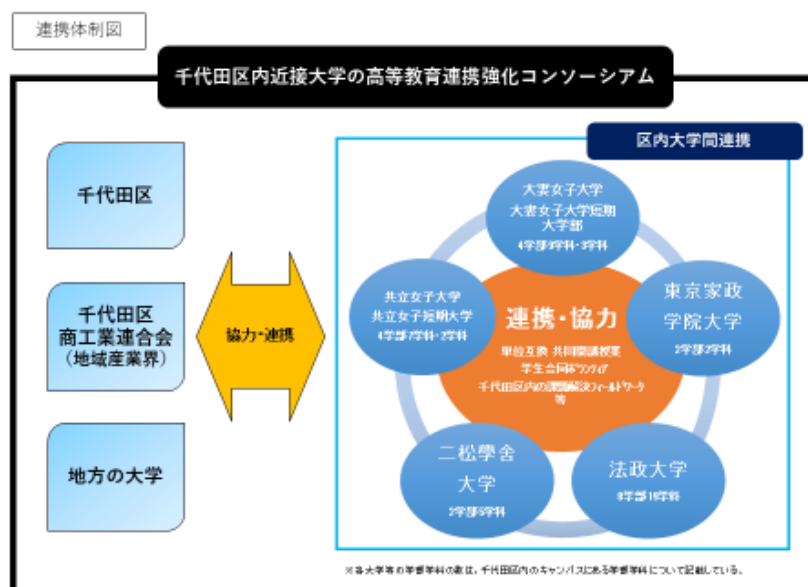
特に必要なテーマの事業実施にあたり、運営委員会のもとに以下のとおり分科会を設置する。

分科会名	職務
単位互換分科会	単位互換の検討・実施に関すること。
公開講座分科会	共同公開講座の企画・実施に関すること。
共同研究分科会	共同研究の検討・実施に関すること。
共同開講授業分科会	共同開講授業の検討・実施に関すること。
FD・SD分科会	共同FD・SDの企画・運営・実施に関すること。
IR分科会	共同IRに関すること。
商工連携推進分科会	地域産業界（商工連）との連携推進に関すること。

c. 5大学企画委員会

千代田区キャンパスコンソでは、各大学の副学長（又はそれに準ずる者）から成る5大学企画委員会を設置し、大学間及び地域連携のあり方と取組みの方向性について検討・意見交換を行っている。この5大学企画委員会は年2回開催することとし、そこで検討等がされた内容は、運営委員会において具現化等を図ることとしている。

(2) 運営・連携体制図



6. 中長期計画の評価

中長期計画は以下のとおり評価を行い、その結果を公表する。

(1) 評価の方法

- a. 運営委員会のもとに「中長期計画策定・検証委員会」を設置する。
- b. 「中長期計画策定・検証委員会」は、中長期計画の策定を行うとともに、毎年度、計画の実施状況の検証と評価を行う。

(2) 評価結果の公表

事業計画の実施内容とそれに対する評価は公表する。

7. 学術分野マップ

千代田区キャンパスコンソの学術分野マップを別表3のとおり定める。

なお、この学術分野マップは、各大学の学術分野の現状を俯瞰できるようにすることを目的として作成したものである。

以 上

(別表1) 課題と数値目標等

	事業	数値目標（評価指標）等
目標Ⅰ 各大学間の連携の推進		
課題① 教育の質の保証・向上（授業内容等の改善）	共同FD（ファカルティ・ディベロプメント）	年延べ30名以上の参加 2018（平成30）年度開始
課題② 教育の質の保証・向上（教育研究活動等の適切かつ効果的な運営）	共同SD（スタッフ・ディベロプメント）	年延べ50名以上の参加 2018（平成30）年度開始
課題③ 各大学間の学生の交流の活性化	学生共同ボランティアを含む正課・正課外のプログラム	年間延べ100名以上参加 2018（平成30）年度開始
課題④ 多様な学びの提供	単位互換の実施	単位互換科目の履修者数（前年度比5%増）
目標Ⅱ 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携の推進		
課題⑤ 千代田区への研究成果の還元	「千代田学」事業	年5件以上採択 2018（平成30）年度開始
課題⑥ 地域コミュニティの活性化	地域向けイベント等開催又は参画	地域在住・在勤・在学者 延べ1,000名以上の参加 又は 年間5件以上の開催又は参画 2018（平成30）年度開始
課題⑦ 地域の教育支援	地域向け共同公開講座等の実施	年1回以上実施 2018（平成30）年度開始
目標Ⅲ 各大学と地域産業界等との連携の推進		
課題⑧ 学生による地域産業振興支援	地域産業界との連携教育プログラムの実施	年1回以上実施 2018（平成30）年度開始
目標Ⅳ 各大学と地方の大学との連携の推進		
課題⑨ 地方の大学との学生交流の活性化	相互参加型教育プログラムの実施	年1回実施 2019（平成31）年度開始
目標Ⅴ 千代田区キャンパスコンソの運営基盤強化（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）		
課題⑩ 積極的かつ適切な情報公開	共同IRの実施と公表	年3項目以上分析・公表 2018（平成30）年度開始
課題⑪ 地域リスクマネジメント	災害時連携体制の検討又は事業実施	年1回以上の検討・事業実施 2018（平成30）年度開始
課題⑫ 継続的検証体制の構築	事業取り組み状況・効果の評価	①コンソ主催関連事業参加者の参加満足度（（毎年度）9割以上を維持） ②単位互換科目の履修者数（前年度比5%増） 2019（平成31）年度開始

<更新履歴>

※2021年4月1日変更（課題④数値目標（評価指標）等）

※2023年4月1日変更（課題④数値目標（評価指標）等）（中長期計画の中間見直し）

(別表3)千代田区キャンパスコンソの学術分野マップ

		大	大	共	共	専	東	二	法
人文科学系統	文学・語学	●	●	●	●	●		●	●
	歴史学・地理学					○			●
	哲学・心理学	○				○			●
	文化学	●		●		●		●	●
社会科学系統	法学					●		●	●
	政治学					●		●	●
	経済学	●		●		●		●	○
	経営学	●		●		○		●	●
	社会学	●		●		○			○
	社会科学系学際	●				○		●	●
理科学系統	生物学								○
	情報学	●							○
工学系統	機械工学								○
	電気通信工学								○
	土木建築工学								●
	応用化学								○
	経営工学								○
	工学系学際								●

		大	大	共	共	専	東	二	法
系農学系統	農学								○
	看護学			●					
系保健系統	栄養学	●	●	●			●		
	家政学	●	●	●	●		●		
家政系統	食物学	●	●	●			○		
	被服学	●	●	●					
	住居学	●	●	●					
	児童学	●	●	●			○		
	教育学	●		●					●
系教育系統	体育学								○
	国際関係学	●		●		●		●	
学総合系統	人間科学	○							

●:加盟校が千代田区内に有する学部・学科の学術分野
○:加盟校が千代田区外に有する学部・学科の学術分野

<更新履歴>

※2023年11月1日変更（専修大学参加他）